

八面観

「突然、下から歌が聞こえて来た。八島ヶ池のあたりを歩いている若者が肩に掛けているトランジスターラジオから放出

される。凡俗きわまる流行歌だった」。新田次郎の「鷲ヶ峰物語」

(講談社)にも登場する下諏訪町郊外の八島ヶ原湿原が、にわかには脚光を浴びる▼全国各地に誕生しているデートスポット「恋人の聖地」に選ばれたからだ。アピールポイントは約1万年かかって、いまの形になったとされる自然の造形美。湿原外周をぐるりとなぞるとハート型になり、男女の出会いの場にピッタリというわけである

▼周回コース90分というから、スケールが大きい。鳥の目になればハート型を確認できるけれど、周囲の遊歩道からは難しい。近くの高台、山といえば標高1700級級の物見石か、ゼブラ山か。その最有力地は湿原脇の同じく1700級の鷲ヶ峰だろう。登りは少しきついが、見渡せれば、恋人ならずともうれしくなる▼今年の新田の生誕100周年。「新田文学」に触れ、小説の舞台を訪ねるにはいい機会である。出身地の諏訪市では記念講演会の開催や、新田のゆかりの地を訪ねるバスハイクも計画されているという。昭和40、50年代の霧ヶ峰開発やビトナスライン建設を題材にして自然保護の取り組みを執筆した新田▼霧ヶ峰高原は、八島ヶ原湿原を含む車山高原から和田峠までをいう。

改めてこの台地を、新田の目から見つめるのもいい。(今井則幸)